



「お、お願い、見ないで!!!」

「ほら!!
あいつの前でハデにイけよ!!!」

(あ、頭の中かき回されて、
おかしくなるぅう!!!)

「むぐぐぐ!!!」

期間限定
~~800円~~ → 600円
BAD END

「なあ遠坂、戦いも終わったしそろそろ僕の女になれよ」

「うるさい！誰があんた何かの！」

「そつは言うけどさー、お前のサーヴァントももういないし、衛宮は今どこにいるかもわからない……」

「もうどうしようもないだろ？」

「ここで僕の物になれば聖杯の力を分けてやってもいいんだよ？」





「黙りなさい慎一！私は聖杯の力なんてものには興味がないわ！それに衛宮君がきつと……」

「やれやれ、本当に強情だな遠坂は……
そういう気が強いところが良くもあるんだけどさ(笑)」

74



は?

そして...

「でもあんまり我儘いうのは良くないぜ？今の僕にはお前の魔術なんか通用しないわけだし」

は?

ガタツ！！

「おやー」



「何とでも言えればいいさ、
そんな口が利けるのも今のうちだからねえ(笑)」

「こーんな風に簡単に押し倒せるんだよ」
「あ、あんた、本当にどうしようもないクズね……」

はっ

アム

アム



「すぐに僕のでアへるようにしてあげるからさ！」

「?!ちよ、そんなもの近づけるんじゃないわよ?!?!」

「フヒヒーやだね、前からこうしてやりたかったんだ
それに、ここまで来たら発散させないと収まらないのさ」

ん

ん

ん

ん

ん



「いぎいい、痛いー！」

「あれ？遠坂処女だったのか？
衛宮衛宮うるさいからとつくにあいつとヤってると思ってたよ！」

「ぶぐう、や、やめなさい慎二ー！」

みぢ

か

びび

みぢ

「あー、遠坂の中ってこんななんだな、結構な名器だと思うよ
桜にちよつと似たところあるのは姉妹だからかな？」

「んぎ、さ、桜ってあんたまさか！」

「ああ、犯したよ？
あいつはもともと間桐の血を繋げるための苗床だからね」





「そんな事よりそろそろ射精しそうだよ遠坂!」

「ひう! いやああああっ!」

「ここが子宮口だな、あー来る! たっぷり出してやるよ!」

ブチン

ちゅ

「ふー、ふー」

「びくう、ふーふー」
（な、中、一杯だされて……）

「ふー、久しぶりだよこんな一杯出したのは！」



「はー、出した出した、いやあ気持ちよかつたよ遠坂！
じゃあ仕上げとしてお掃除フェラとかしてもらおうかな」

「そんな事するわけないでしょー！絶対に許さないわ！バカ娘ー！」



「おー怖い怖い(笑)
無理やりさせようものならチンポ食いちぎられそうだねえ」

「ん」

「ん」

「ん」



「う、うやうやしい……」

の

くく

ブル

ズ

「ひっ、何よそれ……」

「ま、こんな事もあるのかと……」

「開口機だよ、さすがに噛み千切られるのは嫌だし、
これならその心配もなくなるしねえ」



「ははは、結構似合ってるよ遠坂(笑)」

「んぐううう、ふー」
(外しなさいよおおおお！)

「じゃ、心配もなくなつたし、失礼して！」

ぐわん

うん

かえ

「んぐううう、んぐううう」

ん

「んっ、おっ、げっ」

「吐いたりなんかしないでくれよ？
綺麗にするのに逆に汚されちゃかなわないからさ(笑)」

「んっ、えっ、ごぼっ」

「おっと、胃液上がってきたね。
仕方ないチンポで食道を塞いで」と

ぶちゅっ

ざんざん

スプスプ

がっ

んっ

がっ







「うぶ、げほ、げほ」

「はーはー、ありがとうねえ遠坂あ、よだれでべとべとだけど
スツキリしたよっ♡」

「ふふふ、白目向いちやつて。。。これからじっくり仕込んで、
喉犯されただけでイける身体にしてあげるからさ」

ドホッ
ドホッ

ガッ

ビッ

アッ

おげっ

んぐっ

ガッ

「今日からこの蟲蔵が遠坂の部屋だよ」

「む、蟲蔵ですって？」

「そうそう、間桐の魔術は虫を使うからね、桜もここで教育されたんだよ」





「桜は1週間くらい泣き叫んでたらしいけど、遠坂はどれくらいで壊れるかなあ？」

「ズル」ってなわけで、生意気な遠坂もちゃんと調教してもらいなよ(笑)
「ひっ！いやあー！」

ズル

ズル

が

あゝ

が

ズル

が

ズル

ズル



「ひいいい！？は、入ってくるううう！？」

「ハハハ、その虫たちは特別に調整した奴らでね、媚薬を分泌しながら身体に入り込むんだ、どうだい？遠坂」

「んぎい、あ、あひい！」
（な、何よこれえ、こんな気持ち悪い虫に犯されてるのに、気持ちイイ！）

おっ

ホッ

ズキッ

ズッ

おっ

コッ

おっ

おっ



「んぐうう、ふぎいー、ふぐーいー」
「イク、いくうう、イクイク」
「おー、潮吹いてるじゃん！ハハ、すごい顔になってるよ遠坂(笑)」
「そんな我慢しなくていいんじゃないか(笑)」

やっ

やっ

やっ

びゅ

ぐわ

やっ

やっ

やっ

やっ

それから数日間、調教は続いていた…





「なあ遠坂く、そろそろ諦めて僕の女になりなよ、
そうしたらすぐに開放してあげるからさー」

「う、うるひゃいっ!」

「呂律回ってないじゃないか(笑)まあ、

そんなに言うなら徹底的に行くしかないよねっく」

ブル
ブル

ブル

ブル



「んご、んひいいいいい!!」
（お尻もオマンコも全部入ってくるっ!!）

「ほらほら、次々いくよー!」

「むぐうう、ぶぐー!」

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

数週間後

「随分といい感じの腹になったねえ、遠坂」

「んぐ、ふーふー、ひらっ」

ホテ

チヤ

ぐん

「触手突っ込まれてもわめかなくなつたのから、進歩進歩」





「はあはあ、あぐん、あう♥」
（こ、こんなにされて私感じちやってる……）

「ヒヒ、そろそろ頃合いかなあ（笑）」



「はぐっ！や、やめっ！」

「いやさ、そろそろ僕の我慢も限界なんだよね、
種付けしまくってあげるからさっさと産もうよ！」

「だ、だめえええ！」

びっ

あ

びっ
びっ

びっ
びっ

びっ
びっ

びっ

びっ

びっ



「はぁん、はぁん、産みだすのさっすーん」

「んひいい、んおおおお！！」
「ほら、わざわざ僕が手伝ってあげてるんだから遠坂もちゃんとひり出しなよ！」

ん

ん

ん

ん

グッ

ドスト

ん

ん

ん

グッ

ん

ん



「おおー、だいぶ育ってるね、
数日もすれば殻を破って幼虫共が出てくるよ」

「あがつ、ひいひいー♡」

「ハハハ、産むときにイったみたいだねえ(笑)」

「…え、衛宮く…たひゅけ…」

「衛宮だつて?…まだそんなこと言ってるの?」

ひ

や

ん

ん

ハハハ

ハハハ

ハハハ

フム

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

「まあいいや、そうか、
そんなに衛宮に会いたいなら会わせてやってもいいよ！」

「!?!」

「いやさ実は行方不明ってのは嘘で、
あいつは僕が拘束してたんだよねえ」と

「どうせなら遠坂が僕のチンポでイク所をあいつに見てもらおうよ(笑)」

「ま、まってえ、お、おねがいい！」



「し、士郎！お、おねがい見ないでえー！」

伏し

「ビビビ、そんなに暴れるなよ遠坂！お前が僕チンポでアへるとこを見せつけちゃおうぜ(笑)」

ひく。

ビキ

「んぐー、むぐーー！！」
(遠坂！遠坂あ！)

70



「んぎいいいいい！？お、おつきいいいい！」

「実は魔術で精力を強化しようとしたんだけどさ、勢い余って大きさまで凄い事になっちゃったんだよね」

「まあでも、虫や触手でしっっかり拡張してるから、ちゃんと入ってるよ遠坂！」

「はっ、われりゅうううう！」

ズイ

Xリ

ブイ

じ

じ



「ふぐううう、んぐ、ひい♡」
（イクうう、イク♡♡士郎の前なのにい！
こ、こんな化け物みたいなペニスにつかれてえ♡）

「あー、気持ちイイい！調教のたまものだね、
ギチギチに締め上げてくるのに
膣肉がウネウネまとわりついてきて最高♡♡」





「くううう、出すよ遠坂あ！子宮に直接流しこんでやるからなあ！」

「んひっ♡でりゅうううう、ももうイクのやらあああ！」

「ん……」
「あ、あの遠坂がこんな……」

ド

ゴ

ひっ

びっ

び

びっ

が

あ

ん

や

よ

び

びっ

ん



「ほおお♥んひい♥」

「ふー、最高に気持ちよかったよ！ハハ、突き過ぎてマンコから子宮口飛び出ちやてるよ♥」



「んひいいい♥んおほほ♥」

「ぎっきのショックで気がおかしくなってるぽいねえ」

「おい遠坂、今から飛び出た子宮口を元に戻してあげるからさ。ちゃんと腰上げてなよ」

ヒッ

70
ヒッ

アム

ザ

アム

アム

ヒッ

アム

アム



「ふふふ、亀頭を押し付けたりしっかり吸い付いてくるね、この子宮口♡」

「あひ、りゃ、りゃめえ♡」

ぬちっ

りゃっ

「じゃあ行くぞ、ちゃんと感じるんだぜ！」

アッ

アッ

アッ

がっ

びん

アッ

アッ



「んぎひらひらひら……かひゅ♡」

「はー遠坂の子宮内気持ちいいねえ、
うらやましいだろ？衛宮(笑)」

ん

ズツ

ズツ

ん

ん

ん

ん

ん

ん



「はぁんはぁん」
くちゅっ、なんで俺。。。

「おっ、おいおい(笑)遠坂がこんな酷い目にあってるのだから、チンポおつたてるのかよ衛宮！」

「あひい♥おちんぽおお♥♥♥」

あひい

あひい

あひい

あひい

あひい

あひい



「まあ僕も鬼じゃないからさ、少し位イイ思いさせてやるよ！
遠坂、衛宮のチンポしやぶってやりなよ！」

「んぢゅ♡ぢゅるぢゅる♡♡♡」

チンポ

「んぐ、むぐー！
や、やめてくれ遠坂！」

チンポ

「ほら、合わせてやるからさ、一緒に遠坂に射精してやるうぜ！」

チンポ

チンポ

チンポ

ちぽ

チンポ

チンポ

チンポ

「ふふふ、いいぞ遠坂、頑張ったと褒美にこいつをやるよ！」

「ひきいいい♡おしり裂けちゃうううう♡♡♡」

「身体の方はもう墮ちてるし、精神の方も時間の問題かな」

「楽しみにしてるよ遠坂！
これ以上ないってくらい優秀な肉便器に仕上げてやるからな」

「くっ、だめだ！このままじゃ遠坂が……
こうなったら一か八かだ！」

あゝ♡

はぁ♡

はぁ♡



「慎……………」

「な、衛宮！？お前拘束具を引きちぎって！？」

「へぶあ！！？」

「はあはあ、気絶したか……
遠坂今のうちに俺の家に！！」

「あく、しろ……う？」

衛宮邸

「と、遠坂！？お前何してるんだ！！」

「お願い士郎、私とエッチして…」

「は、話が見えないぞ…」

「私慎二に犯されて、頭も体もおかしくされちゃった…」

「だから士郎に忘れさせて欲しいの…でないと、慎二のところに戻っちゃう」





「あ、分った、遠坂がそういうなら！」

「ありがとう士郎♡」

「好きだ遠坂！」

「私もよ士郎♡」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「あん♥はあはあ、ごめんね私のオマンコがばがばにされちゃって、
気持ちよくないよね…」

「そんな事あるもんか！凄く気持ちいい、
俺のに絡みついてきて、今にも意識が飛びそうだ！」

「うれしい♥出して、士郎の精液、
子宮口降りてきてるからそこに思いっきり♥♥♥」

ズ
ズ
ズ

ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ

ビ
ビ
ビ

ビ
ビ
ビ



「はぁあん♡、でてりゅよおお士郎♡♡♡♡♡」

「うぐっ、遠坂あぁあ！」

「お、おねがい、このまま朝まで…抜かないでして♡」

「ああ、朝まででしょう、忘れさせてやるからな遠坂！」

がっ

がっ

ん

ん

ド

ッ

ビ

び

び

翌朝

「はあはあ♥本当に朝まで…、
士郎の精液でお腹がいっぱいになっちゃった♥」

「我ながらこんなに射精できるとは思わなかったよ…」

「ねえ士郎、
懐二の手の届かないところに逃げましょう、そして」

「ああ、これからも一杯セックスして、結婚して、
子供も作って…幸せになろうー！」

「うん♥」



「士郎、大好き♡」

「はあ……姉さんったら、往生際が悪いんだから……」



「せっかく兄さんに犯させる幻覚で虐めようと思ってたのに……まさか魔力で干渉して設定を捻じ曲げてしまうなんて」

「あん、士郎のおちんちん……気持ちいい♡」

「先輩に助けてもらおう妄想……その上、おちんちんだなんてはしたないのかしら！」



「まあ、現実はこの通り、お相手は先輩どころか人間ですらないのだけど」

「んぎっ、ぶぐっ♡」

「あらっ、もうそろそろ生まれそうなのね、立派なボテ腹が変形してる♡」



「んお、おおおおお♡♡♡♡♡」

「ふふ出てきた出てきた、姉さんあなたは今先輩とエッチしてる夢を見てるかもしれないけど、化け物の子供を産んでますよ♪」

オッ
ブ
ン

ニクッ

グ
ー
ン

ア
ッ
ン



「さあ、もっとイキんで♪かわいい可愛い異形の赤ちゃんですよ♡」

「ふぎゅ♡ふーふー♡♡♡♡♡」

「ふふ、姉さん気持ちよさそう、産み終わったらまたすぐに孕ませて上げるから♪」



かっ
ふぎゅ♡
ふーふー♡♡♡♡♡
メ
ギ
ブ
ゴボ♡
フ